

第21期農業委員会委員と農地利用最適化推進委員をご紹介します



五十嵐清美 委員
(高玉)

今期から農業委員の定数が減ったことにより、今まで以上に大変さと責任を感じています。3年間よろしく願います。



紺野 清一 委員
(畔藤)

農業を取り巻く環境が、年々厳しさを増している中、昨年施行された改正農業委員会法でも、農地利用の最適化が重点業務に位置づけられました。今後、も遊休農地の発生防止・解消並びに当町の農業振興と発展に努力したい所存です。よろしく願います。



沼澤 久章 委員
(浅立)

農業に関する法令の改正が続くとともに、農業者の少数化が進んでいる中、大切な農地を有効に活用して、効率の良い作業ができるよう多くの農業者と意見を交換しながら努力したいと思います。よろしく願います。



小林 周一 委員
(蚕桑地区担当)

●農地利用最適化推進委員：5名

新法による新体制への移行期に、新たな任務を拝命いたしました。担い手への農地集積と合わせ、受け手となる経営体の経営しやすい環境整備も並行して必須です。新たな気概と感覚で取り組みます。よろしく願います。



後藤 伸一 委員
(鮎貝地区担当)

第20期農業委員に引き続き、農地利用最適化推進委員を担うこととなりました。地域の農業発展、耕作放棄地の発生防止・解消に向け、微力ながら努めて参ります。地域の皆様方のご協力をお願い申し上げます。



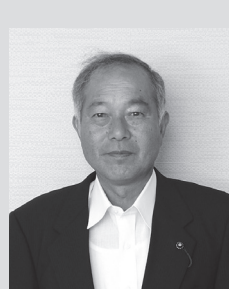
高谷 忠雄 委員
(荒砥十王地区担当)

先祖代々残してくれた農地が農業人口の減少とともに荒れ、農地への関心が薄れている現状です。少しでも自分の土地に意識を、また関心を持ってもらうために、多少なりとも力になれたらと思います。



奥山 進 委員
(鷹山地区担当)

この度、第21期白鷹町農業委員会農地利用最適化推進委員の任を受けました。農家の高齢化に伴い、農地の変動は大きく変わり懸念されます。農地利用最適化を進めるには、担い手への農地集積や集約化が必要です。「人・農地プラン」が今まで以上に大きな役割と責任を担うことになりそうです。



安達 善晴 委員
(東根地区担当)

農業者の経営の安定と生活の向上、地域農業の振興に努めます。緑豊かな住みよいふるさとづくり、活力ある農業、農村を築くため情熱を傾け取り組みます。